

令和6年度 かながわの遺跡展 第2回講演会

環状集落からみた縄文時代中期の 社会組織

國學院大學考古学研究室
谷口康浩

Know Japan. Know the world.
KOKUGAKUIN UNIVERSITY

講演の内容

中央に広場や集団墓をもつ環状集落は、縄文時代に特徴的な集落の形です。その最盛期である中期(約5400-4400年前)には、多数の住居跡が集中する拠点的な環状集落が各地に出現しました。
この講演では、中期の環状集落にみられる規則的な構造に注目し、当時の社会組織—分節的部族社会—について論じます。また、縄文社会の発展と複雑化を導くことになった社会背景について考えます。

1. 環状集落の特徴
 2. 中期の拠点集落と領域
 3. 分節構造と出自集団—分節的部族社会—
 4. 石棒と環状集落
 5. 伝承される社会の記憶と歴史
- まとめ

1. 環状集落の特徴

◆ 二つの規則的構造

1) 同心円構造(重帯構造)

集団墓・広場を中心に住居を配置する同心円構造

2) 分節構造

住居や墓を複数の分節的単位に区分する構造

・集団墓を中心に位置づける空間構成

死者を大切に扱い、祖先たちとのつながりを意識する社会

・住居を環状に配置する空間構成

世帯・家族間の平等な関係を示すもの

・集団墓にみられる分節構造

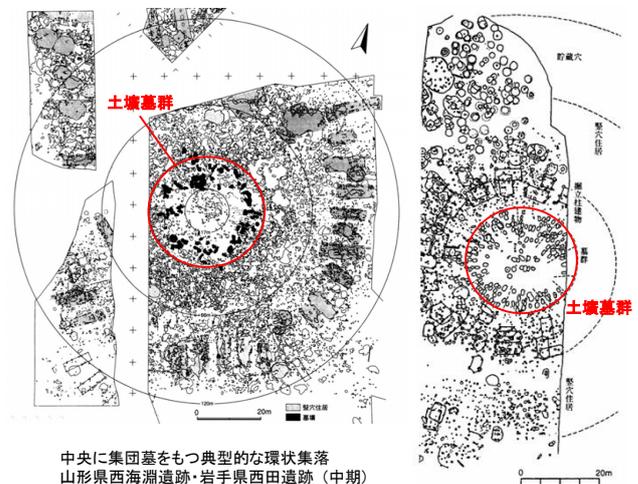
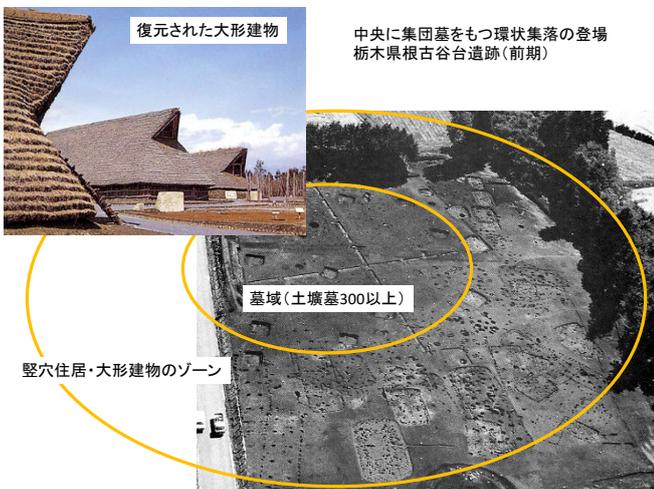
血筋・系譜の厳格な区別を反映

◆ 歴史的過程

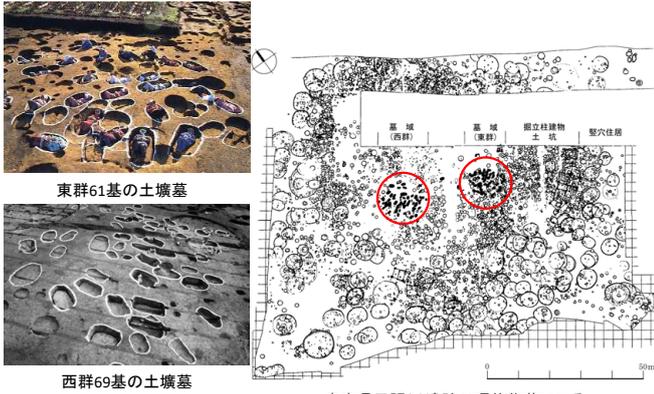
出現(早期末) → 発達(前期) → 最盛期(中期)

→ 変質(後期~晩期) 環状列石、環状盛土遺構など

◎縄文時代の社会構造とその変化を反映



中央に集団墓をもつ典型的な環状集落
山形県西海淵遺跡・岩手県西田遺跡(中期)



東群61基の土坑墓

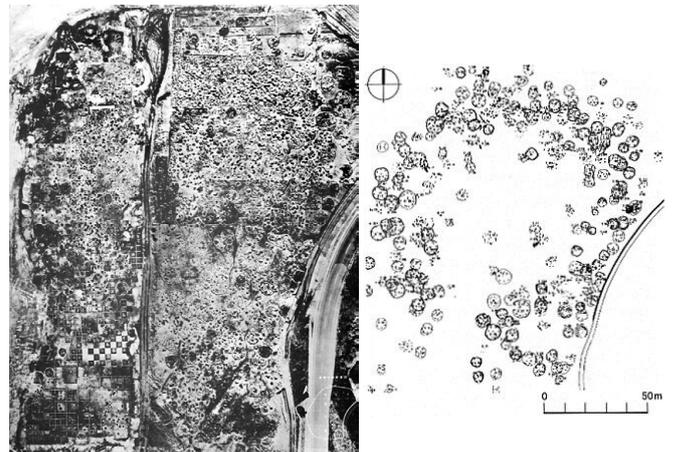
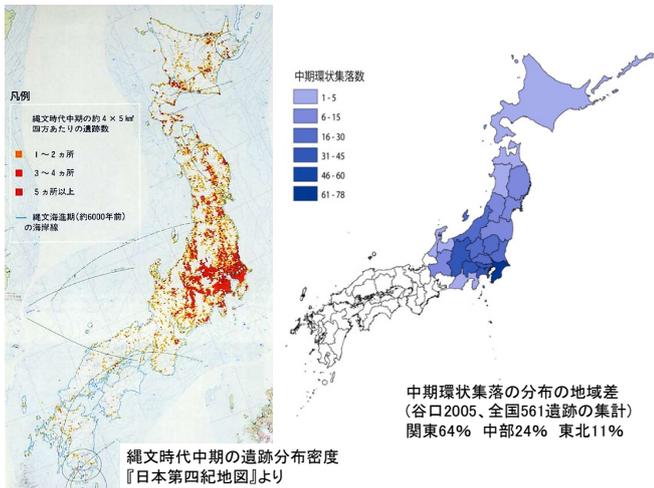
西群69基の土坑墓

青森県風張(1)遺跡の環状集落にみる二つの墓群(後期)

20基(約15%)の墓から玉類出土
 西群 72号墓133点 104号墓17点
 東群 33号墓46点 29号墓21点 68号墓32点 43号墓大珠

2. 中期の拠点集落と領域

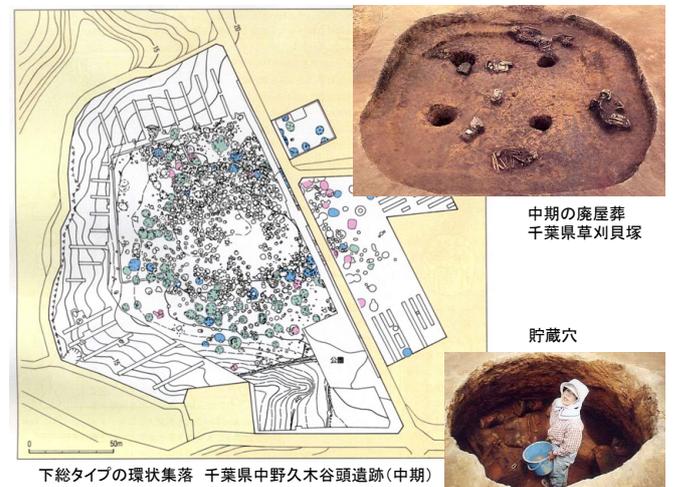
- ◆ 拠点集落の出現
 大規模・長期継続的な環状集落 累積する遺構群
 集団墓造営と儀礼
 ex. 多摩ニュータウン大栗川流域遺跡群の例
- ◆ 環状集落発達の社会背景
 東日本での遺跡数の高揚 ◎高い人口密度
 地域人口の増大に伴う集団間の競合・緊張
 領域権益を維持・継承する社会組織の必要性
- ◆ 基礎的な生産力の向上
 集落周辺における人為生態系の形成
 クリ・ダイズ・アズキの栽培化、新たな生業技術の獲得
 分業化と交換ネットワークの発達

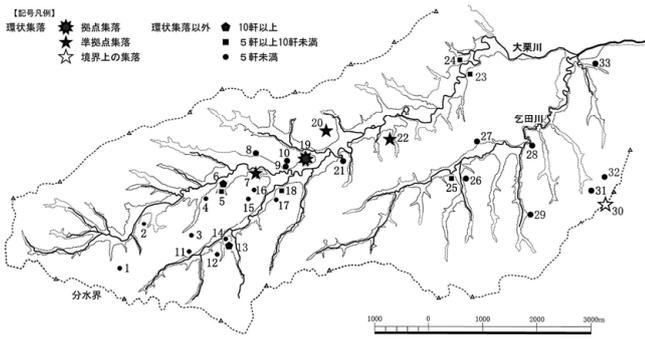


中期に発達する拠点集落の一例 群馬県三原田遺跡(中期)



神奈川県神隠丸山遺跡(中期・後期)





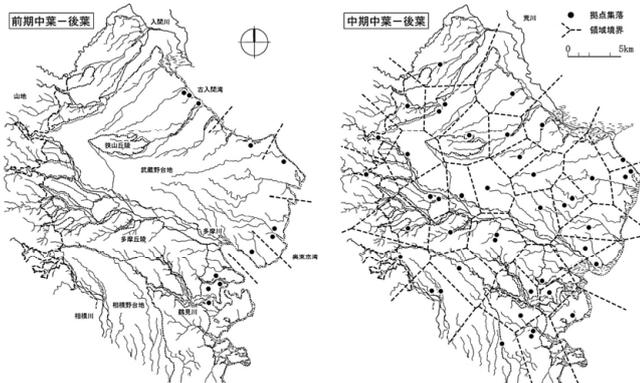
多摩NT地域における中期集落遺跡の分布と拠点集落（谷口2003）

拠点集落 19: Ne72遺跡

準拠点集落 7: Ne107遺跡 20: Ne446遺跡 22: Ne67遺跡



東京都多摩NT Ne72遺跡の環状集落(中期) 外径約145×90m



拠点集落の分布からみた領域構造の時期的変化(谷口2009)

拠点集落間の距離 平均8.4km

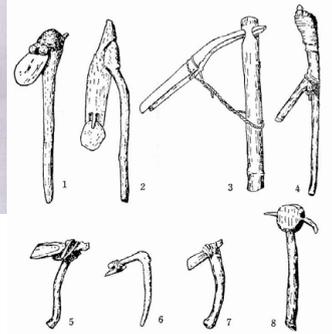
最近隣分析 均等分布傾向

領域面積 平均54.15km²

人口密度 100人/50~60 km²



打製石斧
根茎類採取用の土掘具または開墾具

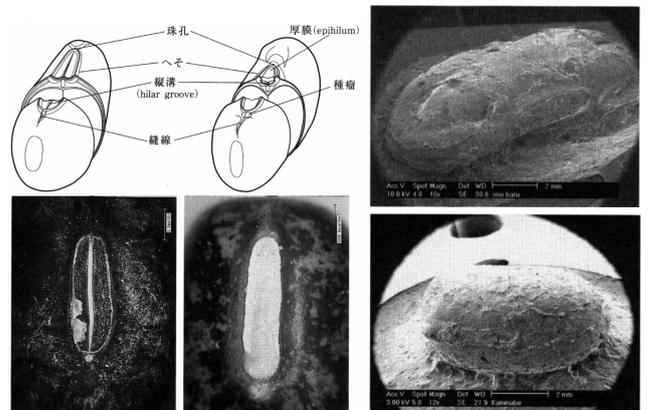


第1図 各種土掘り土斧の 1 Wakuha (アフリカ・ウイクトリア・ヌヤン) の木皮付した土掘り, G. Buchan: Völkerkunde, I, Fig. 263, 2 Mitu (アフリカ・カメルン), 同前同図, 3 西カメルンの竹製土掘り, 同前 II, Fig. 488, 4 東 Ceram, 同前同図, 5 Maronene (東アフリカ) の木中 (Buife) 製の土掘り, 同前 Fig. 540, 6 マタロア人の石製土掘り, L. Reinhardt: Kollergeschichte des Menschen, Fig. 23, 7 北米インディアンの石製土掘り, 同前 Fig. 25, 8 Damara (西南アフリカ) の土掘り, 金銀製? F. Ratzel: Völkerkunde, II, S. 153, Fig.

大山柏による打製石斧の用途論 (大山1927)

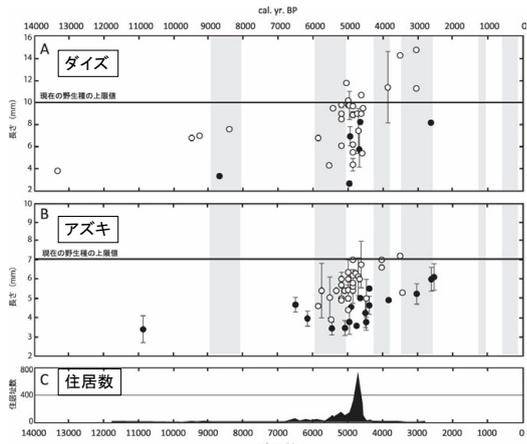


粗製の横刃形石器(左)と粗製石匙(右)
(長野県井戸尻遺跡群出土、中期)



1 タイズ属 *Glycine* sp. 2 ササゲ属 *Vigna* sp.

縄文土器に残るマメ類の圧痕
上: タイズ 下: アズキ(小畑弘己2016)



縄文時代中期におけるマメ類の大型化(那須浩郎2018)

3. 分節構造と出自集団—分節的部族社会—

◆ 分節構造とは
墓群・住居群・廃棄帯の区分 2・4・8単位などのセクション

- ・埋葬区分、その継続性・踏襲性
- ・異なる住居型式
- ・数量的不均衡、半分だけの存在

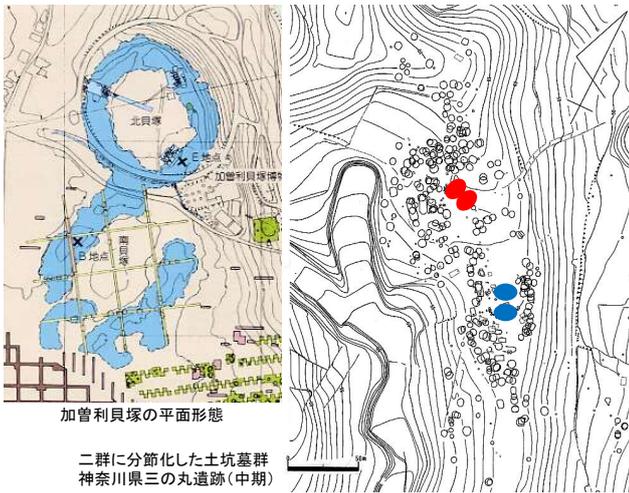
◆ 分節構造の発生過程(勝坂式期)の文化現象

- 異系統土器・異系統文様の共存
- 異系統家屋の共存
- ◎集落外・遠隔地に広がる系統的關係

◆ 単位集団の性格

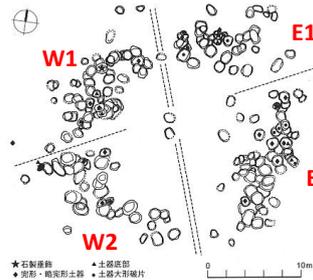
- ・世代を超えて続く親族単位
- ・集落を越えた広がりと系統

◎出自集団(リネージ・クラン)



加曾利貝塚の平面形態

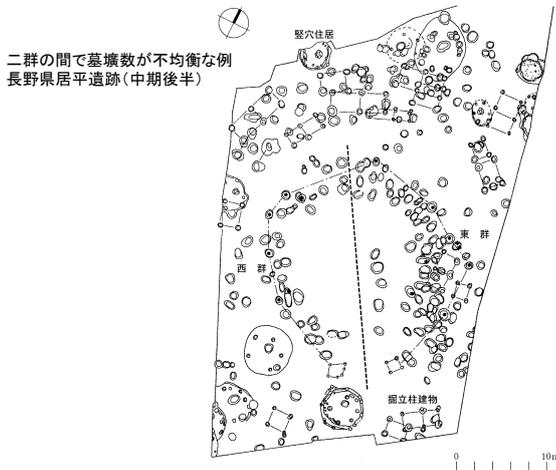
二群に分節化した土坑墓群
神奈川県三の丸遺跡(中期)



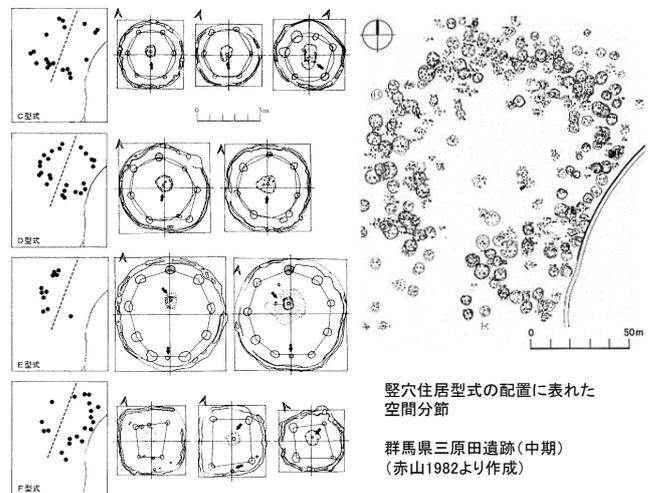
4単位に分節化した環状墓群
東京都多摩ニュータウンNo.107遺跡(中期後半)
造営時期:加曾利E3式期~称名寺式期
推定約250~300年間



内帯・外帯の二重構造
8単位に分節化した環状墓群
岩手県西田遺跡(中期)

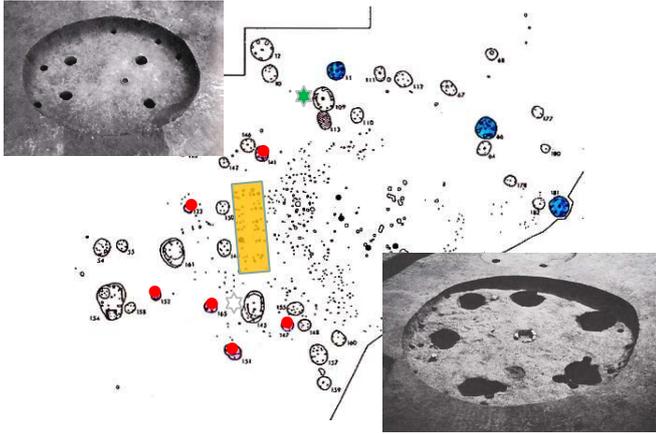


二群の間で墓壙数が不均衡な例
長野県居平遺跡(中期後半)



竪穴住居型式の配置に表れた
空間分節

群馬県三原田遺跡(中期)
(赤山1982より作成)



環状集落内に異系統家屋が共存する例 東京都神谷原遺跡
(中期前半、新道式期の竪穴住居をマーク、緑色は柱間溝タイプ)

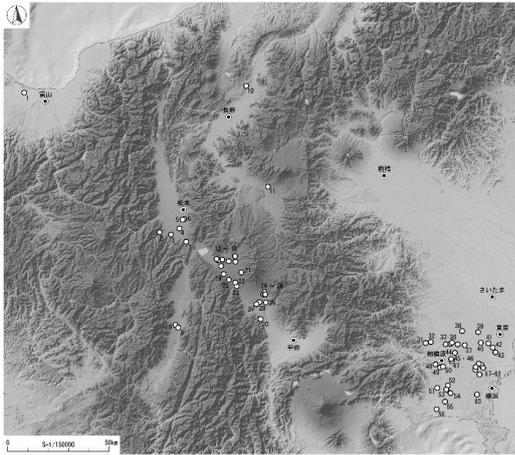


98号住居跡
(藤内Ⅱ式期)

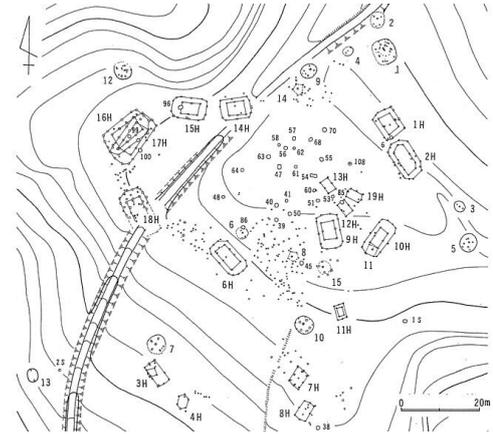
神谷原遺跡にみられる異系統家屋の類例
長野県棚畑遺跡119号住居跡(藤内Ⅰ式期)



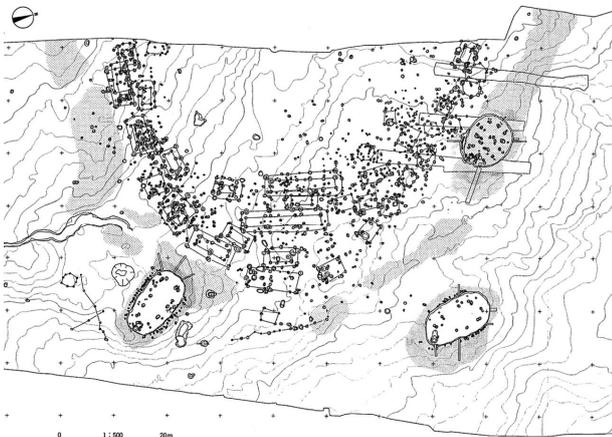
副葬された粗製石匙
神谷原遺跡出土



柱間溝をもつ竪穴住居の地理的分布(谷口2018)



多数の掘立柱建物D群(石井1989)と少数の竪穴建物からなる環状集落の例
神奈川県前高山遺跡(中期前半、勝坂式期)



新潟県上越市和泉A遺跡の環状集落(中期前葉)



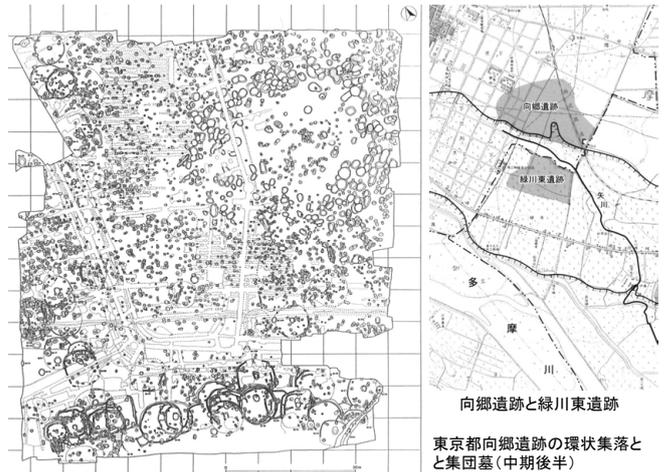
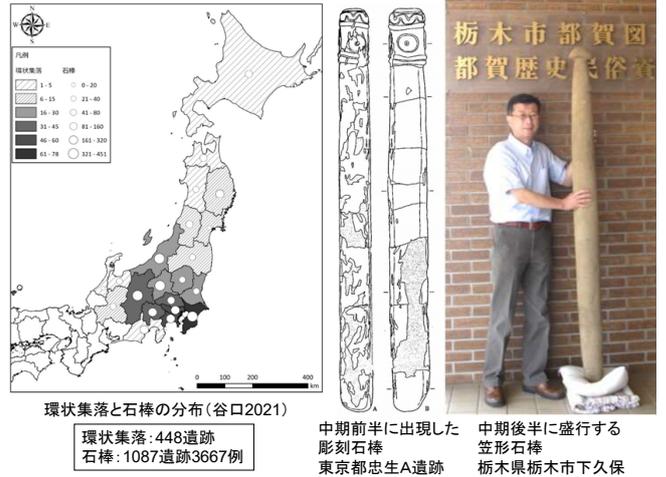
折衷土器が頻出する3系統の土器群
阿玉台 I b 式、新道式、新崎式土器



異系統文様が共存する土器
東京都神谷原遺跡出土(写真:小川忠博氏)

4. 石棒と環状集落

- ◆ 石棒とは 縄文中期に発達する最大の石製象徴物（大形石棒）
鳥居龍蔵1924の定義 cf.小型品「石剣」
- ◆ 石棒の出土状況
 - ・ 竪穴住居内からの出土例、石囲炉への組み込み例
 - ・ 柄鏡形住居・敷石住居での遺棄事例
 - ・ 葬制との関連性
- ◆ 石棒と環状集落の関係
 - ・ 中期の東日本での出現・発達 ◎環状集落の最盛期と一致
 - ・ 中期末の遺棄・廃棄
環状集落を造営した親族組織による儀礼祭祀
◎祖先祭祀の象徴

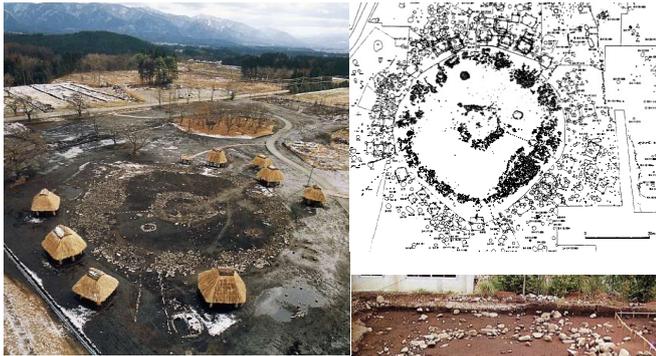


東京都緑川東遺跡の敷石遺構に遺棄された4本の完形石棒(中期末)

- 1: 笠形(暗褐色)
- 2: 二段笠形(暗褐色)
- 3: 二段笠形(青灰)
- 4: 二段笠形(青灰)

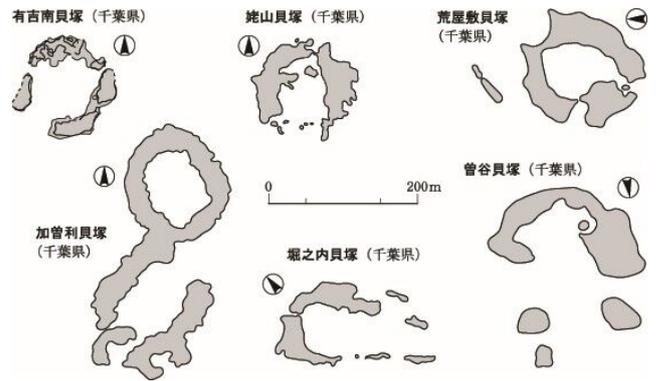
5. 伝承される社会の記憶と歴史

- ◆ 出自集団による祖先祭祀のはじまり(中期)
集団墓造営と集団的儀礼
集団墓を中心とする環状集落の発達
- ◆ 環状列石の出現(中期末～後期前葉)
土壇墓群の上に配石を構築する行為
◎墓標、死者を祀る記念物・モニュメント
- ◆ 環状集落跡の伝承(中期・後期・晩期前半)
環状盛土遺構、大規模環状貝塚
地域社会の拠点 儀礼祭祀の場
◎祖先の記憶、集団の由緒・歴史の伝承



秋田県大湯環状列石(後期)
万座環状列石と掘立柱建物群

集団墓の上に構築された環状列石
静岡県上白岩遺跡(中期末)



千葉県内の主な大型貝塚の平面形
環状集落跡の上に長期にわたり構築された堤状貝塚



栃木県寺野東遺跡の環状盛土遺構(後期～晩期)

環状盛土遺構の類例
埼玉県真福寺貝塚(さいたま市)
埼玉県長竹遺跡(加須市)
千葉県井野長割遺跡(佐倉市)
千葉県三直貝塚(君津市)
千葉県三輪野山貝塚(流山市)



まとめ 環状集落から読み解く縄文中期の社会組織

- 1) 中期の社会構造
 - ・同族意識をもつ親族組織
 - ・永続性をもつ出自集団
 - ・集団墓造営・祖先祭祀による社会統合
- 2) 社会複雑化の度合い
 - ・出自・系譜の認知による社会の分節化
 - ・異系統集団の共存・融合
 - ◎分節的部族社会
- 3) 環状集落発達の社会背景
 - ・人口密度の増大 集団領域:社会存続の基盤
 - ・集団領域を維持・継承できる社会秩序